

いわき農林水産ニュース



ふくしまから
はじめよう。

ふくしまからはじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動ニュース

Future From Fukushima.

9月号 発行 平成28年9月29日

ヒラメ試験操業が開始されました

9月2日（金）、底びき網漁が解禁となり、初漁となったこの日、久之浜から勿来支所までの底びき船25隻が出港し、ヒラメ7尾（約20kg）を含む、合計約3.3トンの水揚げがありました。

沿岸漁業の主力魚種であったヒラメは、長らく出荷が制限されていましたが、8月29日（月）の県下漁業協同組合長会議で試験操業が承認されたため、実に5年半ぶりの水揚となりました。ヒラメは漁業者の総意により、試験操業期間に限り、肉付きが良く、全長50cm以上の個体のみを水揚げすることとなりました。これは県産ヒラメの復活を強くアピールするための取組で、各漁業者は船上でヒラメの大きさを専用の尺で測り、小型魚は放流します。

ヒラメは季節毎に浅深移動する生態を持ち、9月には水深の浅い海域に生息するため、今回は漁獲量が少なかったものと考えられます。今後、冬にかけてヒラメの旬を迎えますので漁獲量の増加が期待されます。

漁獲物は、いわき、郡山、若松、福島の各卸売市場へ出荷されました。ヒラメは少量ということもあり、1,500円～8,000円/kgと高値で取引されました。今後、漁獲量の増加とともに、県外への出荷が見込まれます。

（水産事務所）



（水揚げされたヒラメ）



（底びき網の漁獲物）

「みずほの森プロジェクト」ボランティア活動が開催されました

8月20日（土）、いわき市平下大越地区において、昨年度までに植栽したクロマツ苗木の生長を妨げる下草の刈り払いを行う「みずほの森プロジェクト」ボランティア活動が開催されました。

「みずほの森プロジェクト」は、みずほフィナンシャルグループが、県・市及び地元山林組合と協定を結び、福島県の震災復興のため、平成30年までに津波で被災したいわき市新舞子海岸の海岸防災林を対象に植栽・下刈り等の管理を行っていく取り組みです。

当日は、県内はもとより首都圏や東北各地から約70名の行員が参加し、地元山林組合の方々と一緒に、時折小雨が降る中、苗木より大きく育った下草を手鎌を使いながら、慣れない手つきで丁寧に刈り払っていました。

今回で今年度の活動は終了しますが、来年度以降も引き続き、下刈り等海岸防災林の管理を行っていくこととしております。

（森林林業部）



（手鎌の使い方説明）



（刈り払いの様子）

「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを開催しました



（おいしい県産農産物を食べて応援しよう！）

8月23日（火）、スパリゾート・ハワイアンズにおいて、「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを開催しました。

県産農林水産物の安全・安心のPRをするため、ホテルハワイアンズに宿泊され、バスで首都圏へお帰りになる方（約420名）にいわき市産梨「幸水」や梨の安全性を確認したチラシを配布しました。

小さな子供連れで遊びに来ている方が多く、「梨は大好きなのでうれしい」、「風評被害に負けず頑張ってもらいたい」といった声が聞かれ、効果的に安全・安心のPRをすることができました。

（企画部）

福島県漁業協同組合青壮年部連絡協議会総会が開催されました



(漁青連総会の様子)

8月26日(金)、いわき市内の水産会館において、福島県漁業協同組合青壮年部連絡協議会(県漁青連)の総会が開催されました。県漁青連は漁協の若手漁業者を中心に構成される組織で、漁労技術の向上や本県水産業のPR等に取り組んでいます。

総会では、昨年度の事業実績と決算、今年度予算と事業計画が承認され、風評対策や技術向上に積極的に取り組んでいくことを確認しました。

今年は役員改選も行われましたが、復興に向けた取組を継続的に推し進めるため、副会長(2名)の1名が交代となった以外は再選となりました。再選された役員の皆様には、今後も強力なリーダーシップで漁業の復興を牽引してくれることを期待しています。(水産事務所)

「サンシャインいわき盛りだくさんフェスタ2016 in 友部SA」を開催しました

8月27日(土)、茨城県や首都圏からいわきを訪れる際の玄関口である常磐自動車道友部サービスエリア(下り)において、常磐3市(いわき市・北茨城市・高萩市)や県南・相双地方振興局等と連携して、「サンシャインいわき盛りだくさんフェスタ2016 in 友部SA」を開催しました。

当日は、いわき市産の「サンシャインいわき梨」や「サンシャイントマト」などの農産物の販売ブースが設けられ、来場者に対していわき市産農産物のPRを行いました。

また、ステージでは高校生によるフラダンスショーやご当地キャラ・ヒーローによるステージショーも行われました。(いわき地方振興局)



(フラダンスショーの様子)



(いわき市産農産物の販売ブース)

福島大学スタディーツアーが開催されました

8月27日(土)、福島大学の学生が企画するスタディーツアーがいわき市内で開催されました。同ツアーは平成23年から毎年開催され、今回が5回目になります。

最初に、小名浜魚市場において、水産試験場職員から「福島県の実産魚介類の安全性と水産業の現状」についての講演があり、参加者約30名は本県水産業の現状と放射能の影響について理解を深めました。

次に、四倉漁港に移動して、漁業者からホッキ噴流式マンガ及びシラス船曳網の漁具・漁法について説明を受けました。当初の計画では、漁船に乗船して漁労作業を見学する予定でしたが、当日は海が荒れて出港が難しいため、波が穏やかな四倉港内を1周して終了となったものの、参加者は普段経験できない乗船体験に大喜びでした。最後に、道の駅よつくら港に移動して、ロープワークとホッキ殻むき体験を行い、夕食には、むいたホッキを使った料理を食べ、漁業者との親睦を深めました。

(水産事務所)



(水産試験場の講演)



(漁具・漁法についての説明)

平成28年産米の全量全袋検査に係る業務研修会を開催しました



(熱心に説明を聞く受講者のみなさん)

9月9日(金)、JA福島さくらいわき地区本部において、「平成28年産米の全量全袋検査に係る業務研修会」を開催しました。

米の全量全袋検査は、平成24年産米からいわき市、生産者団体及び米穀事業者で構成する「いわき地域の恵み安全対策協議会」が、市内で生産された全ての米を対象として、国が定める基準値(100ベクレル/kg)を超える米の流通を防ぎ、消費者の皆様へ安全な米をお届けするために実施しており、今年で5年目を迎えます。

研修会には、JA担当者をはじめ、今年から新たに検査業務に携わる22名が出席し、検査が適切かつ円滑に実施できるよう、検査の概要、検査方法及び検査時の注意点等について理解を深めました。

平成28年産米についても、関係機関・団体の皆様と協力し、いわき産米の信頼向上と、安全・安心確保のため、適切な検査を実施していきます。 (農業振興普及部)

今年も「サンシャインいわき梨祭り」が開催されました

9月15日(木)、いわき市錦町の学校法人星学園 錦星こども園において、JA福島さくらいわき地区本部梨部会と同JAいわき地区本部共催の「サンシャインいわき梨祭り」が開催されました。

サンシャインいわき梨祭りは、市内の子供たちが農作物に対する知識を習得する食育と、いわき市を代表する農産物のプロモーションを目的に開催されています。

梨部会の大森嘉雄代表等のあいさつの後、各来賓から園児たちに梨「豊水」が手渡されました。園児からは、お礼のことばと園児の描いた手作りの「感謝状」が贈られました。

試食では、子供たちに大人気のいわき農産物キャラクターの「なしポチ」が登場し、「なしおいしい！」の声とともに、取れたての梨を元気いっぱいほおぼっていました。 (農業振興普及部)



(園児へ梨のプレゼント)



(なしポチも登場！)

その他

第2回コンプライアンス研修会を開催しました

8月25日(木)、26日(金)、今年度2回目となる所属職員を対象としたコンプライアンス研修会を開催しました。

これは、職員の不祥事が後を絶たない現状を省みて、不祥事を絶対起こさない、起こさせない職場風土づくりを推進する目的で実施したものです。

はじめに、総務部副部長が職員研修課作成の職場研修資料の内容について説明し、その後、交通安全の啓発・意識向上を図るため、飲酒運転防止等に関するDVDを視聴しました。

これからも、職員一人一人が、公私共に法令順守はもとより、高い倫理観をもって対応できるように研修を積み重ねていきたいと考えています。(総務部)



(職場研修による研修)



(DVD視聴による研修)

お知らせ

野生きのこの出荷・摂取制限について

お知らせ

○いわき市産の「野生きのこ」、「原木なめこ(露地)」は、**出荷が制限**されています。

「野生きのこ」は、いわき市を含め福島県内の55市町村で出荷が制限されています。

○農産物を販売する場合は、「名称」「**原産地**」を必ず表示してください。

なお、「原産地」については、**市町村名**まで記載してください。

表示例1 名称 なめこ 原産地 いわき市産 栽培方法 菌床(施設)
--

表示例2 名称 しいたけ 原産地 いわき市産 栽培方法 原木(施設)

原発事故後、県では、環境放射線モニタリング検査を実施しており、平成28年9月16日現在、いわき市を含む県内55市町村において、野生きのこの出荷制限措置が継続されています。

野生きのこが多く発生する時期となりましたが、出荷制限措置となっている市町村においては、野生きのこの販売目的での採取、出荷はもとより、直売所等での販売は行わないでください。

また、自主検査により「基準値(100 Bq/kg)」以下であっても、制限が解除されるまでは、出荷・販売はできません。野生きのこを使用した加工品も同様です。

いわき市においては、「野生きのこ」、「原木なめこ(露地)」が出荷制限措置となっておりますが、いわき市産の野生きのこについては、摂取制限措置も取られていることから、食べることも控えてくださるようお願いします。(森林林業部)

県産品紹介コーナーについて



(県産品紹介コーナー)

県いわき合同庁舎1階正面玄関にある「県産品紹介コーナー」では、来庁者にいわき地方の産品を紹介しています。

来庁者への産品のPRを行うことができますので、当コーナーに配置してほしいいわき地方の産品を製造している事業者様がおられましたら、下記までご連絡ください。

【連絡先】

いわき地方振興局企画商工部
地域づくり・商工労政課
電話 0246-24-6007

(いわき地方振興局)

いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果について

□農林畜産物の検査結果

福島県が行った、いわき地方の8月の農林畜産物の放射性物質モニタリング検査結果をお知らせします。

検査した7品目21検体すべてにおいて、放射性セシウムが検査機器の検出限界値以下でした。内訳は(表1)のとおりです。

8月末現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が制限されているのは、(表2)のとおりです。

(企画部)

(表1) 1点も放射性セシウムが検出されなかった品目と検体数

品目	個数
ミョウガ	1
日本ナシ	6
菌床しいたけ(施設)	4
菌床なめこ(施設)	1
エリンギ(施設)	1
牛肉	3
原乳	5

(表2) 出荷制限および出荷自粛品目(8月末現在)

制限、自粛	区分	品目
出荷制限	野菜・根菜・芋類	—
	果物	—
	穀類	—
	山菜	たけのこ、ぜんまい、たらのめ(野生のものに限る) わらび、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ(露地)、野生きのこ
	畜産物	—
出荷自粛	山菜	さんしょう(野生のものに限る)

□海産魚介類の検査結果

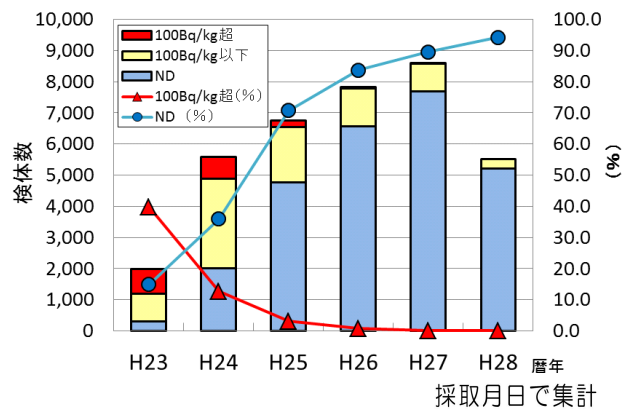
福島県沖で採取された海産魚介類の放射性セシウム濃度は、時間の経過とともに着実に低下しています。

平成28年8月に443検体を検査し、放射性セシウムとしての基準値100Bq/kgを超えたものはありません。海産魚介類では平成27年4月以降、基準値を超えたものはありません。平成27年7月以降、モニタリング検査で放射性セシウムの不検出割合が9割を超え、平成28年8月末では不検出割合が94.3%となっています。(水産事務所)

平成23年以降のモニタリング検体数と放射性セシウム検出の割合

年		100Bq/kg超	100Bq/kg以下	不検出	計
H23	検体数	785	893	294	1,972
	割合(%)	39.8	45.3	14.9	100.0
H24	検体数	921	2,372	2,287	5,580
	割合(%)	16.5	42.5	41.0	100.0
H25	検体数	280	2,147	5,214	7,641
	割合(%)	3.7	28.1	68.2	100.0
H26	検体数	75	1,387	7,260	8,722
	割合(%)	0.9	15.9	83.2	100.0
H27	検体数	4	896	7,677	8,577
	割合(%)	0.05	10.4	89.5	100.0
H28	検体数	0	317	5,201	5,518
	割合(%)	0.00	5.7	94.3	100.0

H28.8.31現在



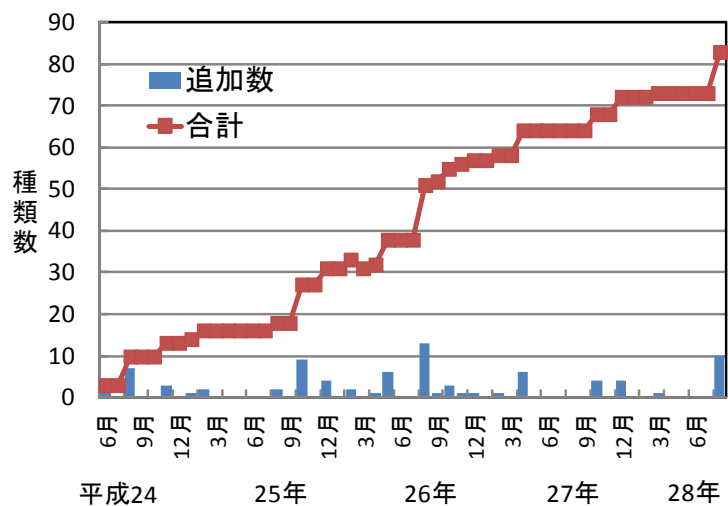
□試験操業の状況

試験対象種は、8月29日(月)の県下漁業協同組合長会議で新たにヒラメ・マアナゴ・ホシガレイ・マゴチ・マツカワ・ニベ・シログチ・ケムシカジカ・サブロウ・ナガツカの10種の追加が承認され、全83種類となりました。

なお、8月24日(水)に国によるアイナメ・アカシタヒラメ・エゾイソアイナメ・コモンカスベ・マコ

ガレイの出荷制限指示が解除されました。(8月末現在、出荷制限魚：16種) (水産事務所)

試験操業の対象種の推移



「ふくしま地域産業6次化新商品カタログ」に掲載された6次化商品をご紹介します



今回は“ふくしま地域産業6次化新商品カタログ”（平成28年3月版）に掲載されている商品の中から(株)いわきテレワークセンターが運営する地域ポータルECサイトふるさとマルシェの「神谷（かべや）ライスバウム」をご紹介します。

「神谷ライスバウム」は、いわき市神谷地区産米「天のつぶ」の米粉を使用したバウムクーヘンです。小麦粉を使用しないため、小麦アレルギーの方にも安心して食べていただける一品となっています。

ふるさとマルシェの鈴木チーフは「2013年に神谷地区の米生産者と県内の酒蔵と連携し、日本酒・純米吟醸神谷を開発しました。その後、子供や女性でも気軽に食べられるようなお菓子を開發したい。」との思いから、県内の事業者と協力し、昨年「神谷ライスバウム」を開発されたそうです。

「神谷ライスバウム」は通常サイズのほか、お手軽に食べられるchicchaiサイズがあり、どちらもふるさとマルシェで買い求めいただけます。この機会に是非ご賞味下さい。

お問い合わせ ふるさとマルシェ
(株)いわきテレワークセンター

・いわき市平小太郎町3-9
・TEL.0120-454-322(お客様センターフリーダイヤル)
・WEB:<http://www.furusatomaruche.com>

食彩ふくしま地産地消推進店のメニューの紹介

地産地消推進日（10月は8日（土）、18日（火）、28日（金））に合わせ、いわき農林事務所に情報提供のあった食彩ふくしま地産地消推進店のメニューを紹介いたしますので、ぜひご賞味ください。

なお、店舗の都合により内容は変更される場合がありますのでご了承ください。また、営業日（メニューの実施日）については、事前にご確認ください。

○ 北の屋そばや（植田町）

地産地消メニュー：天ぷらごはん、野菜の天ぷらそば、なべやきうどん

説明：提供する料理にはいわきの野菜（ピーマン、カボチャ、インゲン、オクラ、ナス等）をできるだけ多く使用しています。

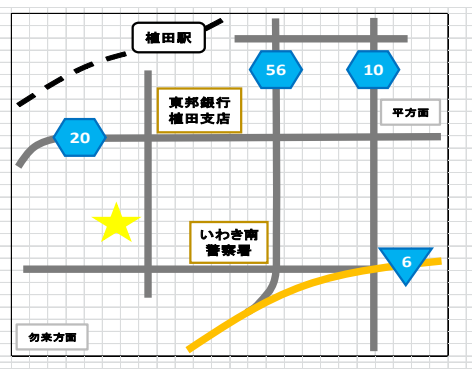
店舗からの情報：平日は、得々献立（ランチ）を実施しています。

住 所：植田町本町1-10-1

電話番号：0246-62-4752



（なべやきうどん）



SUNSHINE IWAKI

サンシャイン いわき!

笑顔あふれる
農林業を
めざして!!










福島県いわき農林事務所(平成28年度キャッチフレーズ)

© 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。
 福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
 〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
 (県いわき合同庁舎 3階)
 T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196
 U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース